

# —ICTで変わる医療

2016年2月5日(2)

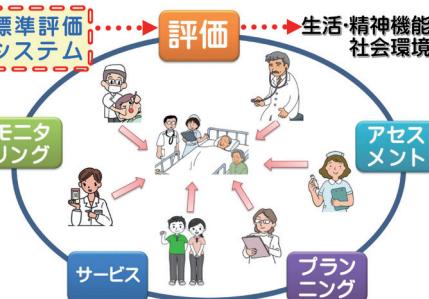
かわら版

第195号

## 心のビタミン No.195

さうに発展している。マ  
イナンバーの運用が始ま  
るなど、我々の生活はコ  
ンピュータ無しでは成り  
立たない。ウェアラブル  
端末として眼鏡型や腕時  
計があり、手袋、指輪型  
や衣服型まで登場した。  
着衣すると胸部から体温  
や心電波形が送信され、  
熱中症対策も可能だ。

ICT(情報通信技術)が  
医療分野でもICTの適  
用が拡大中。超高齢社会  
に対して、総務省は新た  
な社会モデルの確立を推  
進してきた。ICTの利活  
用によって、スマートプ  
ラチナ社会推進会議を開  
催することに。クラウド  
時代に応じた懇談会では、  
業務と連動した標準評価  
システムの普及を提唱し  
ている(図)。



IoT(Internet of Things)を最大限活用できること。  
弱点は人との関わりがや  
や懸念されることだ。  
一方、中高年者もICTの恩恵で医療から広い領  
域に。バーチャル(仮想  
現実)からロボットとの  
共存へと進む。本来、鉄  
腕アトムやドラえもんか  
ら発展し、掃除機ルンバ、  
介護用パルロ、ペッパー、  
分身ロボットオリヒメな  
どが今活躍中だ。日々の  
生活や人生が激変してい  
く。あなたはどう対応す  
るだろうか。

(医師・音楽家板東造)

さて、今年から選挙権  
を持つ18歳の世代はずつ  
と ICTと共に育ってきた。  
彼らの長所はコンピュー  
タ操作に慣れ、あらゆる  
物がネットに接続される